

# 姫路市本町68番地

## 週刊 まちぶら

# 107ヘクタール 軍都の面影わずか

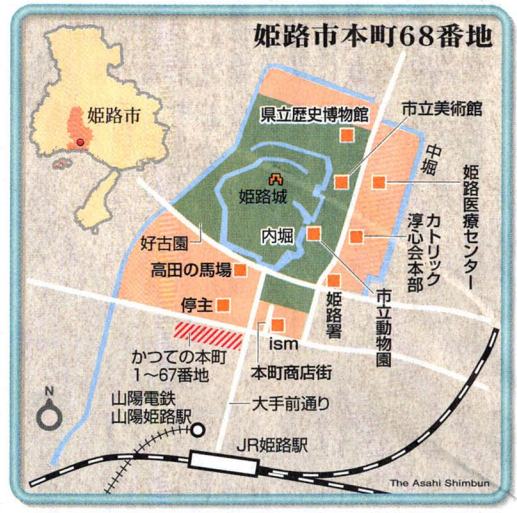
姫路市立美術館、市立動物園、兵舎や倉庫などの建物が並ぶ「軍都歴史博物館」好古園、姫路歴史センター、姫路署……。世界遺産・姫路城周辺にあるこれらの施設は、すべて「姫路市本町68番地」にある。

一つの住所としては、皇居のある「東京都千代田区千代田1番」(約14.2ヘクタール)に次ぐ全国2位の広さ(約107ヘクタール)を誇る。もともとは姫路城の中堀の内側一帯の土地で、江戸時代には武家屋敷が立ち並んでいた。

でもなぜ「68番地」なの？ 答えを知るには、1889(明治22)年までさかのぼるしかない。土地台帳法が施行され、姫路市が市制を敷いたこの年、中堀の内側は、陸軍の歩兵連隊が置かれるなど広大な軍用地になっていた。南隣の旧城下町「本町」に1567の番地があり、軍用地にはその次の68が付けられた。1567番地があった場所は、戦後の再開発で3けたの番地になった。

68番地を歩いた。戦前は陸軍の兵舎や倉庫などの建物が並ぶ「軍都歴史博物館」の象徴だったが、その面影はほとんど残っていない。空襲を免れた建物も取り壊され、現存するのは、赤れんがの倉庫だった市立美術館と陸軍第10師団司令部の官邸だったカトリック「陸軍省」と書かれた小さな石標があった。

戦前の面影は、店名に残っていた。姫路城大手門前に立つ食堂兼土産店「高田の馬場」。社長の稲継一洋さん(59)は打ち明けた。「店名の『馬場』は店付近にあった練兵場の馬場のことなんです。戦後、城の南側では戦災で家を失った人たちが市から土地を借りて集落をつくった。その後の再開発で公園や複合施設ができた。東側には警察署などの施設が並ぶ。現在、68番地には約400世帯が住み、学校や病院などで働く人たちを加えると、千数百人が同じ住所となり、郵便配達や宅配便の担当者を悩ませる。



日本郵便姫路支店では、ベテラン3人が交代で配達する。その一人、谷口健人さん(40)は「1千人の名前を控えた特別ファイルを作成しているという。もうすぐ1千数百人の年賀状の仕分けという「試練の季節」が訪れる。

ただ、やっかいなのは転入者や、学校や病院などで働く人たちへの郵便物だ。あて名に建物名が

(筒井次郎)



旧陸軍の倉庫だった姫路市立美術館前で遊ぶ親子をカメラマンが撮影していた。後方は姫路城の天守閣。同市本町で

ようこそ

本町商店街の写真スタジオ「ism」(イズム)。扉には「68」と書かれている。店内には、すてきな表情の子どもや普段着の家族の写真が並ぶ。オーナー兼カメラマンの石田直之さん(35)は「従来の写真館とは違うカジュアルなスタジオを目指している」。

たいていの人は結婚式でオシャレな写真集をつくるのに、出産後のお宮参りや七五三になると正装した型どおりの写真になるのが疑問だった。「棚にしまうのではなく、飾りたくなるような写真を提供したい」



普段着の写真撮る